

巻頭写真 亜高山帯針葉樹林と偽高山帯植生

Subalpine coniferous forest and pseudo-alpine vegetation in Japan

日本列島における植生の背腹性をもっともよく示すのは亜高山帯である。中部地方や関東地方の脊梁山脈の太平洋側では針葉樹林がよく発達している。内陸部になると次第にアオモリトドマツ *Abies mariesii* Masters の混生度合が増してくるが、森林密度は一般に高い(写真1:御嶽山)。しかし、中部地方の日本海側や東北地方の山地になるとシラベ *Abies veitchii* Lindl. やトウヒ *Picea jezoensis* (Sieb. et Zucc.) Carr. var. *hondoensis* (Mayr) Rehd. は減少・脱落し、アオモリトドマツを主とする森林が発達している。このような針葉樹林では樹高も低くなり、森林が疎開してチシマザサ *Sasa kurilensis* (Rupr.) Makino et Shibata 群落が目立つようになる(写真2:八甲田山)。さらに日本海側に近い越後山脈や出羽山地では針葉樹林がほとんど発達せず、ミヤマナラ *Quercus crispula* Blume var. *horikawae* H. Ohba やミヤマハンノキ *Alnus maximowiczii* Call. などの落葉低木林や、チシマザサ群落、雪田草原が優占し、偽高山帯を形成している(写真3:月山)。

(守田益宗 Yoshimune Morita)



写真1 御嶽山(田の原付近・標高2000 m付近)。



写真2 八甲田山(田茂滝岳から赤倉岳方向を撮影・標高1300 m付近).



写真3 月山(仏生池小屋への途中・標高1700 m付近).